

## ヒロハドウダンツツジ

*Enkianthus perulatus* (Miq.) C.K.Schneid. form. *japonicus* (Hook.f.) Kitam.

### 【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 13。分布域は広いがとびとびに生育している希少種で、全国的にも愛知県でも、園芸目的の採取や植生遷移の進行により減少している。

### 【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 1~2m になる。葉は枝先に集まって互生し、長さ 2~7mm の柄があり、葉身は倒卵形、長さ 2~3cm、幅 1.5~2.5cm、先は尖って先端に腺状突起があり、下部は次第に狭くなって葉柄に続き、辺縁に細鋸歯がある。花期は 4 月中旬~5 月上旬、枝先に 1~5 個の花を散形につける。花は下向きに開き、花冠は白色、つぼ形で長さ 7~8mm、浅く 5 裂し、裂片は反曲する。果実はさく果で上向きにつき、長さ 7~9mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：9 鳳来南部 (芹沢 65625, 1993-5-28)、  
12 新城 (小林 41591, 1993-4-22)。

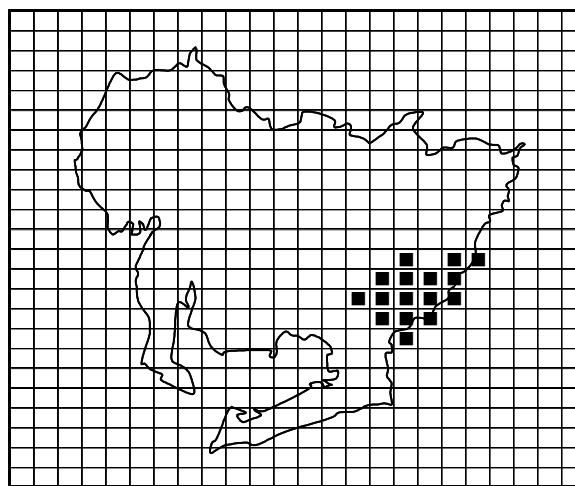
#### 【国内の分布】

本州 (千葉県、静岡県、愛知県、紀伊半島)、  
四国 (高知県)、九州 (鹿児島県)。

#### 【世界の分布】

日本および台湾北部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

蛇紋岩地などの疎林に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は限られているが、その場所では個体数は比較的多い。道路沿いにも見られるが、そのような場所では園芸目的の採取により、減少傾向が著しい。

### 【保全上の留意点】

疎林内や林縁部に生育する低木なので、林が生長しすぎると衰退する。適度に伐採等を行い、疎林状態を維持する必要がある。ただし本種の場合は、草地になるほど強度に伐採すれば消滅してしまう。生育地は比較的良好に知られている場所であるが、それでもこれ以上の園芸目的の採取を助長しないよう、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

基準品種のドウダンツツジ form. *perulatus* は、葉の幅が 8~15mm のもので、広く栽培される。ヒロハドウダンツツジの中から葉の幅が狭いものを選んで園芸化されたと考えられている。

### 【関連文献】

保木本 I p.134, 平木本 II p.147, 平新版 4 p.252, SOS 旧版 p.68.